

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北陸)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔精肉〕（店長）	単価の動き	・単価の高い商品がより動くようになった感じがする。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・地域差はあるが販売量はほぼ前年並みで推移するようになってきた。ただ、業務用の卸売が堅調なのに対し、一般消費者向けの小売部門が伸びてこない。あくまでも主力は業務用だが、小売部門の低迷の要因が分からない。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・アベノミクスの効果か疑問だが、来客数はここ数か月の中でも多く増えている。
		百貨店（売場主任）	それ以外	・株価の影響からか、宝飾品や美術品など高額商材の動きがようやく地方にも出てきている。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・今まで落ち込んでいた高額のプレタポルテゾーンの売上が増加するショップが増えてきた。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・現在、テレビや新聞などでいわれているアベノミクス効果というのは、地方ではまだまだみえてないように思えるが、ゴールデンウィーク以降、気温の上昇とともに夏物の動きが良いので、客も買い控えをしているようにはみえない。また、今年の夏の節電対策を考える客が多いように思われ、インナーやパジャマのコーナーでは、既に半袖やノースリーブなどが良く売れていて、前年同月並みという感じできている。
		スーパー（店長）	単価の動き	依然買上単価は低いままで、他社との競争も進んでいる状況であり、食品スーパーにおいては、客の買上状況をみる限り、世間が騒ぐほど景気の上昇は感じていないが、前に比べるとやや良くなっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・当店は、体育館や展示場などイベントが開催される施設の周辺に位置する店舗であるが、気温の急上昇も大きな原因となり、前月あまり恵まれなかった土曜と日曜の天気は今は良く、来客数の伸びにつながっている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・今期待されている景気回復の傾向が、先月まで全くみられなかったものが前年同月比102%とようやく良い傾向になりつつある。内的要因の全面改装後、初の前年同月比越えであるが、この増加分の2%が景気回復によるものが改装によるものかと考えると、改装した割には同比率が悪いという段階にある。
		衣料品専門店（総括）	お客様の様子	・気温の上昇とともに夏物の売行きが上がり、来客数自体は増えているが、あくまでも気温による需要であり、景気が良くなったかといえばやや良くなっているという評価が妥当である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車や中古車の販売台数が、少しではあるが1月に比べ増加している。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・エコカー補助金のあった前年同月に比べると、販売台数は若干減少しているものの、最大の需要期を過ぎた4月以降も受注及び販売ともに計画台数を確保しており、アベノミクス効果が需要を喚起しているように感じている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは分散型であったため、最大ピークの山は前年同月に比べると低かった。ただし、前後を含めた月間をトータルでみると、「駐車場入庫台数」及び「来客数」ともに、前年同月を越えている。客単価は依然として前年同月を下回るものの、来客数でカバーしている。
	一般レストラン（スタッフ）	それ以外	・今のところ、景気的には多少良くなったと感じられる程度である。ただ、新聞やマスコミなどで高額品が動いているなど景気にプラスの要因が聞かれるようになってきたので、今後も含めて、時間が掛かるかもしれないが、身の回りでも上がっていくような気配が感じられる。	
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・総売上は前年同月比で102%、宿泊人数は同106%、宿泊単価は同98%となり、企画募集と外国人が好調であった。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊、レストラン、宴会各部門ともに、前年同月比で増加している。	

	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・動いているのは一部の客だけである。しかし、販売額的には前年同月を上回っている。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・単価の上昇がみられる。
	タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後半は、天候に恵まれ観光施設に多くの人が集まった。ホテルなどは満杯で、タクシー利用も多くあった。また、港に豪華客船が2度入港し、2000人ほどが下船したためタクシー利用が多く、様々な面で経済効果があった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・ビジネスの客が少し多くなってきている。
	通信会社（職員）	それ以外	・地域企業で決算内容も良好な先が目立ったこともあり、どのイベントも盛り上がる傾向にあり、消費意欲も活発なことがうかがえる。
	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・最新の携帯電話などが発表、発売となり、今までにない施策で客の興味を集めている。また、今まで最新モデルへの変更をちゅうちょしていたユーザーも購入しやすい環境が整えられているため、今までとは違う客層も来店するようになった。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・前年同月と比べると、国内の一般団体は依然2けた以上減少する厳しい動きとなっているが、海外からのインバウンドの客が前年同月比で200%水準となっている。また、個人の客も前年同月並みの動きとなっており、トータルで2けたのプラスになっている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・価格帯でのバラツキが大きい。直近の動きをみると低価格商品の引き合いが多い。一方、高級住宅の消費税率の引上げに対する駆け込み需要は現在あまりみられない。ただし、大型案件の増改築やリフォームは順調に動いている。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・消費税率の引上げの影響で客が動いている。望まれる価格帯は高いものと手頃なもの両極端になっている傾向がある。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・消費税率の引上げや住宅ローン金利上昇が考えられ、住宅を取得したいという駆け込み需要が加速している。
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・気候の変動が大きいので、春物の動きが弱いまま暑くなったので、一気に夏物へ目がいつているが、購買にはなかなか結び付かない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・依然として天気の良い日は来客数が悪い。まだまだお金を使おうという雰囲気ではなく、足元が悪い日は買物などは控える傾向が引き続き強いように思う。
	一般小売店〔事務用品〕（役員）	販売量の動き	・今月は当社の決算月であるが、例年ゴールデンウィークのある月ということより、あまり数字は見込めていない。したがって、今年度も前年同月比から考えると、例年と変わらず売上を上げたと思っている。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・ここ2～3か月、商品の販売量に変化は無い。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・食品の売上は、前年同月を確保できそうである。しかし、ポイントセール回数を増やして集客した結果であり、景気が良くなった印象は無い。
	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・現状、飲料、酒、パン、菓子などの嗜好品はやや不振気味であり、ディスカウント店に流れている状況であるが、食料品のうち、生鮮、日配品などの生活必需品は、前年同月並みで推移している。
	スーパー（統括）	お客様の様子	・前年あたりからドラッグストアが食品を扱ったり、コンビニエンスストアの高速道路サービスエリア出店などに伴う異業種間の競争があり、ごく一部のカテゴリがバッティングしている。そのなかで、客の買物動向に関しては、少しでも安くということと、より近いということと、営業時間ということを加味して買い分けられており、スーパーは厳しい状況が続いている。
	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・タバコの売上が前年同月比で減少しており、それと同様に来客数も減少傾向がみえる。一方、客単価はますますであり、売上ではほぼ前年同月並みといった状況である。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客から景気の良い話は聞かれず、売上も前年同月を確保することがなかなか難しく、同業者からも同様な話を聞いている。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・今でもテレビの販売数量は、前年同月比で4割低下している。不足分は、エアコンなど省エネ機種で売上をカバーしている。

	家電量販店（管理本部）	販売量の動き	・ここ数か月、販売量の前年同月比がほぼ同一である。
	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・原発の問題など地域経済の状況が原因なのか、購入に対して様子見の客が多くなった店舗もある。
	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・乗用車の販売量は、5月は前年同月比で91%、今年2月の販売量は同95%と3か月前と比較すると、低下の度合いはわずかにとどまっている。
	自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・今月は3月の春タイヤ需要の前倒しの反動が依然続いており、また、カーナビゲーション単価下落の要因と重なり、買上単価が前年同月から大きく低下している。前年同月の新車販売の好調による用品販売需要増の反動も大きい。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・単価の安いガソリンスタンドの販売量が多くなってきている。
	その他専門店 [医薬品]（総務担当）	来客数の動き	・競合店の進出地域を除き、来客数は前年同月並みで推移している。買回り品にも大きな変化は無く、制汗剤、害虫駆除剤など季節品が動き始めた。健康食品、ダイエット関連は前年同月を下回っており、買物動向には堅実さが見受けられる。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今年に入ってから相変わらず、個人利用の伸びと法人利用の低下は変わらないが、外国人の利用が徐々に増えている。好調の鉄板焼き部門では、高額の高額能登和牛や国産アワビが例年に比べ30%近く多く出ている。
	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの連休以降の客の動きが悪い。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・例年出掛ける人が多い月であったが、アベノミクスという言葉が独り歩きし、実態は決して良くなく、売上は前年同月と比較すると7割程度と想定される。地元の機械部品商社も取引先の客はあまり良くないと聞いている。二分化された格差社会がますます広がっている気配を感じる。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・4月以降、台湾、香港からのインバウンドの客は増えているが、国内の団体客は減少しており、売上は前年同月並みになっている。
	都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・ゴールデンウィークは期待をしていたが、売上高は前年同月並みで終わった。その後も前年同月並みで推移している。仕入原価は、円安とともに全般的に上昇しているが、価格転嫁すると売れなくなる。平均すると売価は低下、来客数はやや上昇となっている。
	通信会社（役員）	販売量の動き	・競争環境が一段と厳しさを増すなかで、テレビやインターネット契約の新規獲得件数が鈍化傾向にある。最近の円安傾向が一部製品の値上げとなり、家計の余裕を圧迫している可能性がある。
	その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・入会者は前年同月と同様で、この時期としては少ない。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・4月は来客数が前年同月を大きく下回ったが、5月は前年並みで推移している。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・消費税率引上げ前の駆け込み需要が増えてくると思っていたが、現状では特別増えてくる様子は無い。この2～3か月間、問い合わせや展示場来場者数など動きはあるものの、成約数はそれほど増えていない。
やや悪くなっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・特徴的だったのは、3～4月からみると単価が落ちてきている。たとえば、母の日のプレゼントでも前年は3000円前後の単価だったのが、今年は2500円程度に落ちている。また、その買物さえもかなり慎重になっている。3か月前からの流れと少し変わってきた。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・1か月を通して所属する商店街の人通りが減少していると感じた。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・連日、株高や円安、高額品が売れだすなど報道されているが、身近にいるほとんどの人達は、ガソリン高、医療費上昇、税金の上昇などにより、ぼやいている人ばかりである。零細企業の人々の家庭の支出が緩む日が来ることを望んでいる話ばかりである。
	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・株価などが上がり景気が回復したようなことをいわれているが、実際の給料が上がっていないため、耐久消費財などは一番敬遠されやすい。したがって、購買には結び付いていない。

	悪くなっている	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・近隣への競合店の出店があり、来客数が大きく減少している。また、客単価の低下が1年以上継続している。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・3～4月と世間的には物入りの時期でもありその余波があり、物が今までに増して動いていない。消費者の財布のひもは固いままである。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・比較対象月の2月がグレードレース開催月だったこともあるが、1日当たりの売上平均額が20%減少した。
企業動向関連 (北陸)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・価格自体はまだ下落傾向とデフレ状況にあるものの、100円均一商材よりも、むしろ販売価格の高い物の売行きが良くなっている。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円安もあり、受注面では純輸出関連で引き合いも増え期待感が強いが、足元では前年同月を少し上回っている程度の状況が続いている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内市場は、国が進めた「ものづくり補助金（ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金）」申請が決まってきており、設備需要が伸びると予想している。
		建設業（経営者）	それ以外	・3月は年度末工期の公共工事の完成に向け多忙であったが、4～5月は手持ち工事量が少なく代休の消化に努めた。しかし、営業利益面では3月工期の好採算の工事が完成計上されたため、4月の月次決算は例年よりも良かった。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・アベノミクスへの期待により株価と為替相場が回復し、その期待感と同時に企業のマインドもやや上昇している。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・客の直近の業況からすると、いずれも前年同期比でマイナスの材料がほぼ消えたという状況にあり、景気判断については、常態もしくは良い方向に向かっているものと判断される。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者に聞いたところ、忙しくないとする業者は半分いるものの、一方で、動き始めているとする業者も半分くらい存在する。
		司法書士	取引先の様子	・近年ほとんど無かった事業用資金の融資に関する設定が多かった。
		税理士（所長）	受注価格や販売価格の動き	・客の方で、製造業も工事業も、受注単価が以前よりも利益が上がりやすい価格になりつつある気配がある。飲食店関係においても、客1人当たり単価や売上も少しずつ良くなってきているように客の数字をみているとうかがい知ることができた。したがって、何となくやはり良くなっているのではないかというのが実務を行っていても感じられる。
	変わらない	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・特に受注状況は変わらないため、良くなる状況はまだ先であると思う。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅市場の方は動いているといわれるが、当社の関連商品の動きに影響するほどの受注量は無い。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・産地全体の状況としては、特殊商品や低価格商品の生産を行っている一部のメーカーを除いては、依然として厳しい状態が続いており、人員縮小や時短などの話も耳に入っている。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・技能工の人手不足で労務費が上昇しているなか、一部に依然と採算度外視で、異常と思われる見積入札する業者が見受けられ、厳しい受注価格競争が続いている。
		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・国外向けの物量の動きは良くなっている感じは見受けられるが、国内向けの物量の増加傾向は見受けられない。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・住宅関連のチラシ出稿量が多少前年同月を上回ってきているが、本来のものではない。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連 (北陸)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・専門職や技術職の求人数が増えてきているため、求職者とのミスマッチが多くみられた。

	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	求人数の動き	・ 求人広告の売上は前年同月をクリアした。少なくとも前月より良い状況である。
	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	求職者数の動き	・ 求人者数の動きについては思ったほど伸びてはいないが、これまでとあまり変わりがないかやや良くなっているように感じている。
変わらない	人材派遣会社 ( 役員 )	求人数の動き	・ 新卒採用されたばかりで新規需要は少ない。短期間の欠員補充での需要に対する人材も、スキル不足で成約に結び付きにくい。
	求人情報誌製作会社 ( 編集者 )	求人数の動き	・ 3 か月前と求人数の動きはほとんど変わらない。
	職業安定所 ( 職員 )	求人数の動き	・ 新規求人数は全体で前年同月比17.7%増加と伸びている。しかし、内訳をみると、主に技術者を募集する建設業で同56.5%増加、募集する時間帯が幅広い宿泊業や飲食サービス業が同61.4%の増加となっているものの、県内の主要産業である製造業では同21.7%減少していることから、良くなっているとは言い難い。
	職業安定所 ( 職員 )	求人数の動き	・ 一部求人数が増加している産業もあるが、製造業など減少している産業も多い。
	民間職業紹介機関 ( 経営者 )	求人数の動き	・ 人材紹介や派遣とも求人数が前年同月に満たず増えていない。緊急雇用的な求人案件も減少している。
	学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	求人数の動き	・ 前年同月比では特に変化がみられない。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-